

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2005. 9. 11 No. 6

北海道ボランティア・レンジャー協会

エゾヤマハギの花

秋の気配が感じられる頃になると、エゾヤマハギのピンク色の花が咲きはじめます。秋と共に咲きだすのでハギ（萩）は草かんむりに秋と書くのでしょうか。ハギはマメ科のハギ属に分類されていますが、アジア東部を中心に約60種あり、日本には10種ほど自生していると言われています。また、ハギには園芸種が数多くありますが、私たちが北海道の野山でよく目にするのはエゾヤマハギですが、ヤマハギとの違いは、葉がやや厚く、毛が短く、先端がとがり気味のものを指すそうです。



葉をよく見ると互生で細長い葉柄をもった三出複葉です。植物図鑑等を調べると、多くは落葉低木ということで木本に入れていますが、草本の仲間に入れてあるものもあります。これは、茎が木質化しますが、冬を越し春になると古株から多くの芽吹きをするところからきてのでしょうか。エゾヤマハギの根株は成長が早く、土中に深くささりこみ、また拡がることから、土どめの役割をはたすので、堤防や山の斜面に植えられ、緑化や砂防用に役立っています。

庭などに植えられているハギにミヤキノハギがありますが、この花は地面すれすれまでに、しだれ咲きをしますので、エゾヤマハギとの違いがわかりますし、日本海側のブナ帯を中心に自生するケハギをもとに園芸化されたものと言われています。

ところで、ハギの語源は古い株から芽を出す「生え木」からきたという説と小さい葉が歯の形に似ているので「歯木」からきたという説がありますが、古くは「波義」との書き方もあります。

ハギは秋の七草の一つですが、万葉集には、ハギを詠みこんだ歌が137首もあり、花の歌では最も多いそうで、花の風情には日本人の心を打つものがあるのでしょうか。



ミヤキノハギ



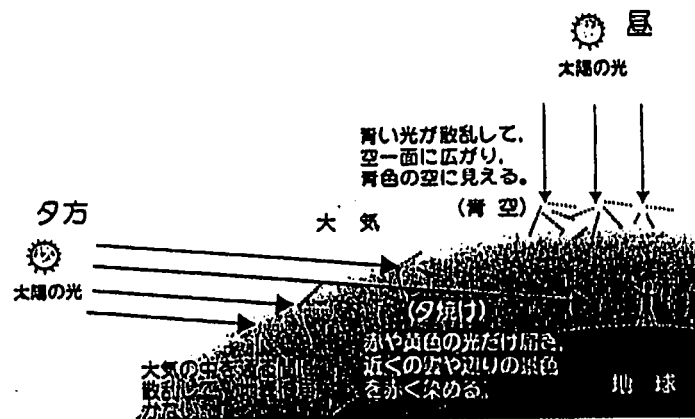
エゾヤマハギ

(写真の引用：北海道樹木図鑑 亜璃西社)

秋の青空

秋空のイメージは「天高く…」の言葉のように澄み切った青空を連想します。宇宙空間は真っ暗なのに、太陽に照らされた地球の空はなぜ青いのかという疑問が湧いてきます。

この秘密は地球をとりまく厚い大気の層と太陽の光にあります。太陽の光が大気に差し込むと気体の分子や微粒子にあたって四方八方に散乱します。特に波長の短い青色の光は空で何回も散乱を繰り返し、空いっぱいに広がって空を青く染めます。これが晴れた日の青空です。大気に水滴や塵などが多いと青以外も散乱してしまい、白っぽい青空になります。秋は乾燥した空気で大気中に水滴などの粒子が少なく、美しい青空となるのです。



渡りの時期

夏鳥と冬鳥が入れ替わる渡りの季節になってきました。渡りとは繁殖地と越冬地を定期的に移動することをいいます。地球上に生息する約9000種の鳥のうち三分の一が渡り鳥といわれていますが、なぜ大きなリスクを背負ってまで渡りをするのか、まだまだ不明な点が多いと言われています。そんな中で、渡りの幾つかの説があります。

一つは「食物説」があります。鳥は餌を求めて渡りをするようになったというのです。二つには「氷河説」があります。地球が広範囲に氷で閉ざされていたころ、温かい南の方に移動するようになったという説です。もう一つは、もともと一つであった地球の大陸が現在のように六大陸に分かれたことに関係があるのではないかという「大陸移動説」があります。

10月の観察会は？

●10kmエコハイキング

10月2日(日) 10:10~14:30 野幌森林公園 開拓記念館集合 弁当持参

瑞穂の池コースと大沢コースをつないで、10kmのハイキングを兼ねた観察会です。秋の森を楽しみながら、体力作りも行います。

●ありがとう観察会

10月16日(日) 10:10~14:30 大沢口ふれあい交流館集合 弁当持参

恒例、秋のゴミ拾いを兼ねた観察会です。楽しませてもらった森に感謝しながら清掃活動を行います。周りの木々も紅葉に彩られています。